

令和6年度第3回石巻市総合計画審議会 会議録

■日 時 令和6年11月29日（金） 午後1時～午後2時45分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数19名に対して13名が出席しており会議は成立

2 あいさつ

(1) 会長あいさつ

本日もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。前回の会議でも非常に活発なご議論をいただきました。本日も前回からの続きとなります。活発にご議論いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 議題

(委員)

会議の進め方に関するのですが、KGIやKPIを判断していくということは非常に難しいことです。この場の皆さまそれぞれご専門の中で、KGIやKPIをお考えになることもあるかと思いますが、それともまた成り立ちが全く異なるもので、生活実感から指標を考えるということも難しいものと感じています。

例えば、議論にあたってのポイントをお示しいただけると、この場で有益な議論につながるのではないのでしょうか。

(会長)

特に庁内で悩ましかった点などをお話いただけると委員からの意見は出しやすくなるということです。いかがでしょうか。

(事務局)

そのように進めさせていただきます。

(1) 後期基本計画における体系及び指標（案）について（説明：政策企画課）

【第4章】

(委員)

2つ目のKPIにおける「18地点」とはどこを指すのでしょうか。また、中心市街地のとらえ方を教えていただきたいと思います。

(事務局)

エリア図と地点の分かる資料を後ほど提供させていただきます。

(委員)

震災後、若い方々の感覚としての「中心市街地」の捉え方が変わってきているのではないのでしょうか。三陸道も整備され、蛇田方面や隣接する東松島市も含めて考えていく必要があるのではないかと思います。

(委員)

3節のKPIには売上高や出荷高という数字が含まれていませんが、計測することが難しいということでしょうか。2節では水揚げ量や出荷量といった指標が設定されている一方で、3節ではこのような設定になっている理由があるのでしょうか。

(事務局)

数字が取れないということもありますが、そもそも農業の1番の課題は後継者不足になるので、農業従事者をしっかりと確保していくというのを一つの目標としております。また、農地面積自体も減ってきている現状にあることから、農業の課題を踏まえたKPIを設定したものです。

(委員)

産業分野は数字が出しやすい分野であるので、KGIやKPIの設定は良いと思います。そうした中で、この計画では、新しい創業といった記載はありますが、事業継承の問題には触れられていないので、そのような課題も入れていただきたい。

また、石巻管内の実業高校においては、760人の卒業生のうち310名ぐらいが就職希望者であり、6割ほどが進学を希望している現状です。今後外から人を引っ張ってくるというUIJターンの視点も考えていただきたいと思います。

(事務局)

事業承継は重要かと思っております。「商工業の振興（1節）」か「未来の産業を担う人材の確保（6節）」のどちらに加えるべきか庁内で検討いたします。また、UIJターンについても、現在様々な取組は行っておりますが、後期計画においてもさらに推進していけるように対応していきたいと思っております。

(委員)

6節の目指す姿では、「若者が働きがいを感じるまち」としており、地元出身の若者に限定しているわけではない以上、施策が「地元雇用者」に限定するのはいかなのでしょうか。シンプルに、「地元企業の採用人数を増加させる」といった設定もできるのではないかと思います。

(事務局)

例えば、「企業に就職した25歳までの若者の割合」など、数字が取れるのであれば検討したいと思います。

(委員)

2節において、「水産加工品出荷量」というのは、客観的に見る指標としては良いと思いますが、取組の中で、「輸出販路獲得・拡大に向けた取組を支援する」という点、海外の品物と価格競争をすることは難しい一方、日本の加工技術は高いことから、加工技術を輸出してはいかがでしょうか。付随するメンテナンスも含めたパッケージとして輸出し、それを後押しするという取組もよいのではないのでしょうか。

また、5節において、「企業立地を促進する」とありますが、具体的にどういった企業をターゲットにしているのか教えていただきたいと思います。

(委員)

石巻市は水産加工の技術はありません。石巻市の最終商品はほとんどありません。生出荷するか、冷凍し自社で使うか、冷凍品を出荷するかであり、末端商品を作らないのです。

主体となる市民が理解しないで作り市民に配ったところで、宙に浮いた話のようになってしまっているように思います。KGIやKPIは単なる数字ではなく、勉強しても理解するのに時間がかかります。このメンバーだけでも、行政と一緒にあって、この計画の中身について共に理解する必要があるのではないのでしょうか。土曜日でもいつでも結構ですので、時間を設定せず、グループ討論でもして、深めていきたい。

(事務局)

そのような場を設けたいと思います。

前期計画では、「市民ができること」という欄を設け記載しております。この計画をしっかりと市民に発信することが必要と思っており、後期計画においては、子どもからお年寄りの方まで分かりやすいような概要版を作成し、学校や出前講座で発信できるよう進めていきたいと考えております。

企業誘致に関するご質問については、雇用が多く生まれるという点では製造業も一つです。また、石巻市は三陸縦貫道で八戸までつながっておりますし、国際拠点港湾も持っているため、物流の面では他の地域と比べてもポテンシャルは高いと考えておりますので、そういった産業に特に力を入れていくことが必要と思います。

(委員)

今日の会議に若者がいないのに、「若者が働きがいのあるまちづくり」というのはおかしいのではないのでしょうか。若者を巻き込んでいくべきだと思います。

また、女性の意見も聞かなければいけないのではないのでしょうか。3分の1くらい女性を入れるべきだと思います。

さらに、人手不足のせいで立ち行かなくなる会社が出てきています。大崎市では外国人を育成する学校もできます。学校とまでは言いませんが、外国人労働者が安心して働けるような環境も入れていく必要があるのではないのでしょうか。

(事務局)

若者の意見は非常に重要で、こども家庭庁においても市の行政計画に若者の意見をしっかり反映していくようにと言っており、本市でも「こどもまんなか宣言」をし、各種計画の中で、子どもたちの意見をしっかりと聞いた上で進めることとしております。当課としても、「政策コンテスト」という若者に政策を提案していただく事業を実施しており、若者の意見を大切にしていきたいと考えております。

また、総合計画では「男女共同参画社会」も一つのテーマにしており、このような会議では女性登用率4割を目標とし進めております。当会議においても、皆さまに委員のご推薦をいただく際には、そのような視点でお願いをしておりましたが、業務の関係等もあり、2名の登用となっております。

(会長)

「市の事業による」としている指標が複数ありますが、市の事業に限っている理由はあるのでしょうか。

(事務局)

市の事業に限定しないと数字を押さえることが難しいことから、限定しております。

(委員)

5節について、石巻市ではどのような企業を誘致しようとしているのでしょうか。

(事務局)

企業と内密に動いていることもあり、また、担当部署も同席していないため、申し訳ございませんが具体的なお話はできません。

(委員)

2030年には石巻市は人口10万人程度になる推移と言われております。企業を誘致すれば、職員の家族もついてくるので、人口増加を図るには企業誘致が早いと思います。市の職員も一営業マンとして、企業誘致に本当に力を入れていただかないと、人口もあっという間に10万人を切ると思います。大きい企業は難しいとしても、中規模の企業の誘致活動をぜひお願いいたします。

【第5章】

(委員)

1節について、KGIの客観的指標が設定されておりましたが、根本的に大事なことが抜けていると思います。法の中で安全点検を行うことになっていますので、「定期的な安全点検の効果的な実施率」といった視点で設定してもよいのではないのでしょうか。

(委員)

2節について、「キャリア教育」が一切触れられていません。地元で職業を体験するとか、地元の企業の話を書くとか、そういった体験を重ねることによって、前章にも関係しますが、石巻市を担う子どもが地元に残ってくれるのではないのでしょうか。ぜひ「キャリア教育」という視点を加えていただきたいと思います。

(委員)

2節について、K G Iの「学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合」が、社会を生き抜く力にどうつながるのか見えません。また、K P Iを吟味する必要があると思います。

4節について、石巻市では、コミュニティスクールを推進しておりますが、充実していきつつある地域もあれば、形式的なところで終わってしまっている地域もあります。コミュニティスクールを今後どのように運営していくかということが大事であり、このような点をK P Iに反映していくべきだと思います。

(事務局)

2節のK G IとK P Iの関係性について、2名の委員からご意見がありましたが、「社会を生き抜く力を育てる学校教育」ということで、やはりまず自分に自信を持てる生徒を育てるということと、学力向上という両面で考えさせていただきました。教育委員会とも改めて協議をしたいと思います。

また、コミュニティスクールの件については、総合計画推進会議においてもご意見をいただいております、教育委員会とは共有させていただいております。

(委員)

2節について、全国学力学習状況調査が指標に設定されているが、当該調査の根本的な狙いは教師の指導力の向上です。よって、1つ目のK P Iは「教職員の研修実施率」といったものが設定されるのではないのでしょうか。

また、3つ目の細節は、就学支援の面でK P Iが設定されておりますが、インクルーシブ教育の視点にしないと、本来の意味での「社会を生き抜く力」にはつながらないのではないのでしょうか。

さらに、4節の1つ目の細節の主な取組で、「市内小学校区」といった記載がありますが、小規模な学区とある程度の規模の学区では格差が生じてしまいますので、学力の保障の面からも学区再編を進めていかなければなりません。2つ目の細節では、郷土愛につなげるという流れにしておりますが、子供会が崩壊している現状で、保護者と地域の方で子供会を再構築していく上で、ジュニアリーダーを関係づけることが必要になると思います。

(事務局)

学区再編については、どの節に組み込むのか悩んだところです。現在教育委員会に部署を設置し、学区再編を進めておりますので、学区再編の取組はいずれかの節には組み込みたいと思います。また、子供会の活動については、明確に回答はできません

が、担当課と共有したいと思います。

(委員)

2節について、「社会を生き抜く力を育てること」に学力が重要ということはどうしても引っかけられます。スポーツの持つ力は大きく、スポーツを通じることで協調性や思いやりの心を持つことができたりするものではないでしょうか。学力が重要となると、学校の塾化を図るような学校教育の方針に思えます。一緒に遊んだり、スポーツをしたりして、健全な心身を養う場が学校であって、あまり点数にこだわるのではなく、学校に行くのが楽しくなるような環境づくりが必要だと思います。

(事務局)

この節だけ見ると学力だけしかうたっていませんが、本市は体力的にも全国平均を下回っていますので、そういった取組も加えていく必要はあると思います。

(委員)

いま学校は「運営」ではなく「経営」として扱われており、先生は子どもと向き合うことよりもレポートを書くことが忙しく、子どもと一緒に遊べない状況のようです。また、教育委員会の構成も、教師の経験もない一般職員が大半を占めていることから、文科省から言われることをそのまま実施しているだけです。

(委員)

学校は今多忙で、様々な課題を抱えています。保護者が多様化しているということが特に大きい課題です。例えば、一部の保護者からの過度な要求など、個々の保護者に丁寧に対応することが困難な状況です。学力の話題も出ておりますが、学校は学力だけで測れるものでもなく、非常に難しい部分がありますし、企業の論理も出ましたが、企業の論理だけでは割り切れず、無駄なところにも力を注がなければいけないものです。

そういう点からすると、K P Iはこれでよいのか、もっと吟味が必要で、子どもの心が育つためのものにしていただきたいと思います。

(委員)

4節について、K G Iの客観的指標で測ることは少し苦しいかと思います。効果が出るまでに時間もかかります。例えば、「地域文化の継承や多世代交流を目的としたイベントへの参加人数」といったシンプルなものにできないのでしょうか。イベントの開催状況を把握することは手間をかけることにはなりますが、現状据えられるK G Iとしては精いっぱいなのではないかと思いました。

(事務局)

当初は各地域の伝統文化を授業に取り入れる学校数などを設定しようとしたもの

の、なかなか難しい面がありましたが、参考にさせていただきたいと思います。

(委員)

3節について、客観的指標にある「総合評価A」とはなんでしょうか。

なお、「いのちを守る防災教育」においては、地域と連携した防災訓練という視点を大事にしていく必要があると思います。

(事務局)

KGIの客観的指標は実践的なもので、訓練における児童生徒の動きを点数化し評価するものとなっており、一方、KPIは教科書で勉強した防災についての理解度を評価するものとなっております。

【第6章】

(委員)

2節において、主観的指標に「効率的」とありますが、「効果的・効率的」とした方がKPIも生きてくるのではないかと思いますので、ご検討ください。

(委員)

役所のお金の事情が分かりませんが、職員がたくさんいればサービスは充実する一方、職員が多すぎると財政が悪くなるということで、企業であれば人件費率が一定割合を超えると会社が立ち行かなくなります。実際、石巻市の財政事情はどうなのでしょうか。

(事務局)

経常収支比率が90%超えると、家計に例えればカツカツな状況であり、石巻市は100%台となっておりますので、今後下げていけるように目標に設定しております。

(委員)

市の財政収支見直しを見ると、財政調整基金を今後3年間で61億円取り崩すと記載がありましたが、本来であればプライマリーバランスはゼロが1番良いと思いますが、毎年20億円くらい取り崩していくと、基金がなくなるという状況になると思います。基金の取り崩しを抑制するように、「遊休資産の売却」などを記載する必要があるのではないのでしょうか。

また、「人口1万人あたりの職員数」について、インターネットで調べたところ、石巻市の普通会計職員数は92.97人、一般行政職員数は76.74人であり、100人に対して1人くらいの職員数となっております。人口規模が同等の自治体で比較すると、最多の都市となっているようです。人を減らせというわけではありませんが、10人退職したら5人採用するなど、段階的に減らすといった、人件費の抑制が必要になりますので、取組に加えていただきたいと思います。

(事務局)

主な取組には記載しておりますが、「公共施設の削減」は効率的な取組になると考えております。

職員数については、石巻市は直営の保育所を未だに多く抱えている状況であり、石巻市の職員数が多い理由ははっきりしています。市が直営で管理すべき施設なのかどうかという点も大事になります。また、正職員を減らして、会計年度任用職員でカバーするという実態もあります。現在、定員適正化計画を改めて見直ししているところですので、石巻市の適切な職員数をしっかりと考えてまいりたいと思います。

4 その他

5 閉会

(副会長)

今週は2回、計4時間という長い時間、ありがとうございました。本日欠席の委員もいらっしゃいますが、だいたい10人前後の方々が集まると、様々なご意見が出てきます。それをひとつひとつ、市役所の方で吸い上げ、その意見を極力体现した形に取りまとめるという作業になります。

人口減少について、若者が外に出ていくのは、「地元就職先がない」または「地元の魅力がない」という理由が多いです。その問題は、大人にあると思います。「こんなにいい町なんだよ」って言ってくれる大人があまりいません。「何もないよ」という大人の方が多いです。確かに東京と同じものを求めると、人口規模が違いますので、敵わないところはありますが、石巻市にも良いところはたくさんあります。地元愛というのは、我々世代の大人が持つべきなのだと思います。

また、教育に携わる方をお願いしたいことがあります。進路指導のときに、より高度な学問を求めて外に行くということは仕方ないことかもしれませんが、地元にも大学があります。就職を希望する子どもたちの話を聞くと、「賃金の高い首都圏に行きなさい」と勧める方も多いとのこと。賃金が高いのがすべてかということではなく、リビングコストの安い地方で、心豊かに、時間軸も少しゆっくり進む中で、心身が疲弊しないような環境で働くということもいいのではないかと思います。そのようなことを言うてくださる方は少ないようですので、教育に関係する方々には、そういったところを心込めて進めていただきたいと思います。

それから生徒に関して、「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」という指標もありますが、これと同じくらい大事なことが、他人のよいところを認めてあげられるかどうかだと思っています。それが欠落すると、SNSで誹謗中傷したり、いじめをしたりということにもつながりますので、ぜひ皆さまにも考えていただきたいと思います。

最後に、財政について、石巻市の財政は新聞等でもご案内のとおり厳しい状況で

す。我々民間は何かあるとすぐ行政に頼ってしまい、これは間違っていないとは思いますが、その一方で民間がどれだけ努力しているかということも必要です。行政の努力も必要ですが、やはり民間も努力をし、効率化を図っていくことは大事であると考えます。石巻市が財政再建団体に陥らないようにするためには、行政だけではなく、私たちも一緒になって汗をかくということが必要ではないかと思います。皆さんはそういったことをこの場で話せる立場の方々ですから、会議の席だけでなく普段から担当課の方に赴いていろいろ意見をお話しすることで、よりよい計画ができるのではないかと思います。

本日はご苦勞様でした。

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	委員人	所属	備考
1	姥浦 道生	東北大学災害科学国際研究所	出席
2	横江 信一	石巻専修大学	出席
3	庄司 昌彦	武蔵学園データサイエンス研究所 / 武蔵大学	欠席
4	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会	出席
5	井上 達彦	石巻市防災士協議会	出席
6	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
7	宇角 安弘	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席
8	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	欠席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	出席
10	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
11	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
12	近藤 浩之	いしのまき農業協同組合	欠席
13	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
14	橋本 丈史	株式会社 街づくりまんぼう	欠席
15	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	出席
16	伊藤 桂子	石巻市社会教育委員会	欠席
17	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
18	花岡 徹	石巻金融団	出席
19	日野 淳	株式会社 口笛書店	出席

令和6年11月29日現在（敬称略）